

様式1		令和5年度 清瀬市立清瀬第十小学校		学校評価計画	
学校の教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動			
<p>・豊かに感じ、よく考える子ども</p> <p>・友達の良さがわかり、助け合う子ども</p> <p>・心身をきたえ、明るく生きていく子ども</p>		<p>○育成を目指す資質や能力を「他者とのかわりを通して、よりよく問題を解決できる力(協働問題解決力)」とした。それを実現させるために必要な能力を以下の4つとした。</p> <p>・基礎的な力(言語、数量、情報スキル) ・他者と共に考える力(協働問題解決力、メタ認知)</p> <p>・他者と共生できる力(人間関係形成力) ・社会の中で実践する力(社会参画力、自律的活動力)</p> <p>学ぶ楽しさ、分かった・できた喜びを感じられる授業の実践、自他の命を大切にしている心情を育む教育の充実によって、育成すべき資質や能力の実現を図る。また、特色ある教育活動として、「図書館を使った調べる学習コンクール」を活用した情報活用能力の育成や養蚕体験や「赤ちゃんの子カラプロジェクト」を通じた命の学習に取り組んだりする。</p>			
目指す学校像(ビジョン)					
【目指す学校像】		①児童にとって明るく楽しく安心できる学校			
		②教職員にとって明るく楽しく指導が行える学校			
		③保護者や地域と連携し信頼される学校			
【目指す児童・生徒像】		自分を大事に、かわりを大事に、命を大事に、未来を大事にする児童			
【目指す教師像】		児童に達成感を味わわせ、確かな学力・自尊感情を育むことのできる教師			
前年度までの学校経営上の成果と課題					
<p>成果 健やかな体の育成では、取組指標・成果指標それぞれ全ての項目が「4」となっており、学校関係者評価でも信頼された御意見をいただいている。また、確かな学力の向上における児童の思考力・判断力・表現力を育成するための授業改善、豊かな心の育成におけるいじめへの対応、本校の特色における体験的な活動の充実も、取組指標・成果指標、それぞれの項目が「4」となっており、総じて安全・安心な学校として教育活動が展開されている。</p> <p>課題 取組指標は「4」であるが、成果指標が「2」であった項目は特別支援教育の充実として定めた「保護者やSCと連携しながら児童の実態や指導方法を共有し、実践の振り返りを行う。」「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や環境の工夫・改善を行う。」であった。友人関係や日常生活において継続して気を配ったり、個に応じた学習指導を継続して行ったりする。また成果指標の評価規準が厳しかったので、その見直しを図る。</p>					
柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	確かな学力の定着と情報活用能力の育成を重視した教育活動を行う。	「図書館を使った調べるコンクール」を活用して、情報活用能力を育成する。	各学期に1回、本を活用して課題を追究する授業を実践し、情報活用能力の育成を図る。	4 全学級で実施	4 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが85%以上
				3 16学級以上18学級未満で実施	3 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが75%以上
		基礎的な知識・技能の定着を図る。	東京ベーシックドリルを活用して、国語・算数の基礎基本の定着を図る。	2 14学級以上17学級未満で実施	2 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%以上
				1 10学級以上14学級未満で実施	1 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%未満
豊かな心の育成	一人一人の児童の良さや違いを認め合い、命と人権を大切にしている心豊かな児童の育成を図る。	互いの良さを理解し、すすんで助け合う児童を育成する。	月1回の高学年児童を中心とした挨拶運動を行わせたり、学期に1回、児童に挨拶をする意味や価値を考えさせたりする。	4 全学級で実施	4 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが85%以上
				3 16学級以上18学級未満で実施	3 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが75%以上
		いじめの未然防止、早期発見、速やかな解決、再発防止を行う。	学級指導・道徳の授業を通じていじめ未然防止教育を行う。児童の振り返りアンケート、ふれあいアンケートを定期的に実施し、児童が相談しやすい体制を整える。	2 14学級以上17学級未満で実施	2 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが65%以上
				1 10学級以上14学級未満で実施	1 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが65%未満
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の定着と心身の健康や体力の向上を図り、生きる力にあふれる児童を育成する。	児童がすすんで運動や遊びに親しみ、健康の保持増進と体力の向上を図る。	体育指導の工夫改善、1学期に体力テストの練習を実施し、数値的体力向上を目指す。また、体力向上旬間を各学期ごとに実施する。	4 学級担任がアンケート調査を年間3回実施	4 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが85%以上
				3 学級担任がアンケート調査を年間2回以上実施	3 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが80%以上
		児童がすすんで安全に生活する態度を養う。	登下校のマナーや廊下歩行の仕方を指導し、安全に生活する態度を養う。	2 学級担任がアンケート調査を年間1回以上実施	2 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが70%以上
				1 学級担任がアンケート調査を実施しなかった。	1 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが70%未満
特別支援教育の充実	個に応じた指導・支援の充実を図る。	一人一人のニーズ、個に応じた支援の推進を図る。	特別支援に関する研修を行った上で、学級ごとの実態に応じて適切に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や環境の工夫・改善を行う。	4 教員の自己評価で肯定的な回答が23人(全員 養護教諭を除く)	4 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが85%以上
				3 教員の自己評価で肯定的な回答が18人以上23人未満	3 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが75%以上
		特別支援学級開設に向けて保護者への理解の促進、啓発を行う。	特別支援学級開設に向けて児童や保護者向けの資料を作成し、周知する。理解促進のための啓発活動を行いながら、相談体制を整える。	2 教員の自己評価で肯定的な回答が12人以上18人未満	2 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが65%以上
				1 教員の自己評価で肯定的な回答が12人未満	1 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが65%未満
本校の特色	外部人材を活用して、教育活動の充実を図る。	体験や活動を通して他者と共生できる力、社会の中で実践する力の向上を図る。	養蚕学習、赤ちゃんの子カラプロジェクト、認知症サポーター養成講座、松竹梅+科学の方向上プロジェクト、石田波郷俳句大会出前授業、保育園・幼稚園との交流等、体験的な活動を充実させる。	4 学級担任が取組みを毎週実施する。	4 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが85%以上
				3 学級担任が取組みを月に2回以上実施する。	3 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが80%以上
		学校支援本部を軸にした地域との連携を強化する。	学校支援本部と連携して、地域に根ざしたボランティア活動を実施する。	2 学級担任が取組みを月に1回以上実施する。	2 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが70%以上
				1 学級担任が取組みを実施しなかった。	1 アンケートによる児童の取組への満足度の評価A・Bが70%未満
				4 教員の自己評価で肯定的な回答が24人(全員)	4 アセスの学習支援領域の児童が減った。
				3 教員の自己評価で肯定的な回答が18人以上24人未満	3 アセスの学習支援領域の児童が増えた。
				2 教員の自己評価で肯定的な回答が12人以上18人未満	2 アセスの学習支援領域の児童が10人以上増えた。
				1 教員の自己評価で肯定的な回答が12人未満	1 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが85%以上
				4 教員の自己評価で肯定的な回答が24人(全員)	4 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが85%以上
				3 教員の自己評価で肯定的な回答が18人以上24人未満	3 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが75%以上
				2 教員の自己評価で肯定的な回答が12人以上18人未満	2 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが65%以上
				1 教員の自己評価で肯定的な回答が12人未満	1 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが65%未満
				4 体験的な活動を全学級で実施	4 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが85%以上
				3 体験的な活動を16学級以上18学級以下で実施	3 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが75%以上
				2 体験的な活動を14学級以上17学級未満で実施	2 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが65%以上
				1 体験的な活動を10学級以上14学級未満で実施	1 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが65%未満
				4 ボランティア活動を10回以上実施した。	4 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが85%以上
				3 ボランティア活動を7回以上実施した。	3 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが75%以上
				2 ボランティア活動を5回以上実施した。	2 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが75%以上
				1 ボランティア活動を3回以上実施した。	1 アンケートによる保護者の満足度の評価A・Bが65%未満